

科目名	音声学					単位	2.0
担当教員	加藤 淳						
授業形態	講義	開講期間	後期	配当年次	1	授業番号	7206

●授業のテーマ  
日本語音声学

●到達目標

人間が発する「音（おと）」のしくみを学び、普段何気なくつかっている日本語を音声の観点から客観的に捉える力を養う。特に、音声によって何が伝わるのかについて自覚的になることを目標とする。

●学習内容(授業概要)

本講義では、人間がどのように「音声」を発するのかという仕組みを学び、日本語の音声的な特徴を理解する。国際音声字母（IPA）による表記も紹介するが、実際に発音したり音を聞いて判断したりといった練習を中心に行うため、積極的に取り組んでほしい。また、日本語教育現場での音声教育、国語科教育での取り扱いなども適宜紹介する。「正しい発音」ではなく、正確に伝えるためにはどうしたらよいのかといったコミュニケーションの観点から捉えて考えてほしい。なお、毎回、小課題を課すのでコメントパーパーに記入して提出すること。

●学習内容(授業計画)

1. 音声と音声学 音声の性質
2. 音声学と音韻論 音声の単位
3. 単音の分類 母音と子音
4. 母音の分類 音声的母音と音韻的母音
5. 子音の生成条件 五十音図の発音①
6. 五十音図の発音②
7. 五十音図の発音③
8. 五十音図の発音④
9. 特殊音（撥音・促音・長音）の発音
10. 環境による音声変化
11. 音節と拍
12. アクセント
13. イントネーション・プロミネンス・ポーズ
14. 音声からみたコミュニケーション 国語科教育・日本語教育と音声
15. テスト

●準備学習・事後学習の内容

用語を覚えるのではなく、日常的に音声を聞き取る「耳」を養うことを心がけてください。通学の途中に聞いたアナウンスや人の話し声に敏感になって、授業にその疑問を持ってくるなど、積極的な授業参加を求めます。

●成績評価方法・基準

期末試験（40%）、コメントパーパー提出（30%）、授業参加度・平常点（30%）を総合して評価する。

●テキスト（必携）

特になし

●参考文献／その他

鹿島央著『日本語教育をめざす人のための基礎から学ぶ音声学』（スリーエーネットワーク、2002）

窪園晴夫『アクセントの法則』（岩波書店、2006）

戸田貴子『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』（スリーエーネットワーク、2004）

山田敏弘『国語教師が知っておきたい日本語音声・音声言語』（くろしお出版、2007）

山田敏弘『日本語のしくみ』（白水社、2009）

●履修上の注意

実際に発音したり音を聞いて判断したりといった練習を中心に行います。授業内の活動には集中して積極的に取り組んでください。